

平成30年度(第43回)「^{かずのう}児童健全育成賞(数納賞)」 公募要領

主催 一般財団法人児童健全育成推進財団
後援 厚生労働省

「児童健全育成賞(数納賞)」は、児童健全育成に関する優れた実践報告に対し褒賞するものです。この賞は、朝日生命厚生事業団が故数納清氏(当時 朝日生命会長)の寄付金を基金に「数納賞」として制定し昭和51年より実施され、平成16年度(第29回数納賞)から、児童健全育成推進財団が主催しています。平成23年度に「児童健全育成賞(数納賞)」と改称いたしました。

1. 対象 児童の健全育成に関し、児童福祉施設(児童館、児童養護施設等)、地域組織(母親クラブ、子ども会等)、家庭相談員、里親等の活動の具体的実践報告。
2. 審査基準
 - ① 活動の先駆性、普及性、社会的効果性
 - ② 地域(地域住民、各施設、行政など)との連携状況
 - ③ 自己の活動への客観的検証
 - ④ 文章構成における論理性
 - ⑤ 実践記録としての価値
3. 応募について
 - ① 投稿書式 ◆A4判縦長用紙・横書、枚数厳守
 - 手書き — 400字詰原稿用紙×30枚(黒のペン使用)
 - ワープロ — 32字×25行×15枚
 - ◆題名、氏名(ふりがな)、住所、年齢、職業(所属先名)、電話番号、簡単なプロフィール(200字程度)を明記した表紙を添付する。※原稿には含みません。
 - ② 締切 平成30年11月30日(金)
 - ③ 応募条件 ◆既に他団体の企画に応募した、いわゆる重複論文等は不可。
◆応募者の実践に基づいた報告であること。施設・団体等の実践報告は応募者がその施設・団体等から同意を得ていること。
◆業務に関わる実践報告については、所属長および関係者の了解を得ること。
◆個人情報やプライバシー等の倫理面の取り扱いに配慮し、必要な場合は本人の了解を得ていることを明記すること。
◆引用は明確に区分し、出典と引用箇所を明記すること。
◆同一内容の実践について再応募する場合は、その間の普及性や効果等が明記されていること。
◆児童健全育成活動が一定期間(2年以上)実践され、効果の評価ができること。
 - ④ その他 ◆応募原稿はお返しいたしません。
◆実践報告の内容について確認を行う場合があります。
◆原稿は電子媒体(メール、CD等)による提出も可。
 - ⑤ 提出先 (一財)児童健全育成推進財団 児童健全育成賞(数納賞) 係
 - 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15 日本薬学会ビル7階
 - E-mail kazunou@jdoukan.or.jp
 - 【お問い合わせ】03-3486-5141
4. 授賞 児童健全育成賞(数納賞)1編、同佳作4編。ただし、該当するものがなく見合わせる場合があります。
入賞者には賞状と賞金(児童健全育成賞(数納賞)30万円、同佳作各5万円)を贈ります。なお、佳作に準ずると評価された報告には、選外ながら特に「奨励賞」を設け、賞状と賞金(3万円)を贈ります。
【裏面もご覧ください】

5. 入賞発表 平成31年3月
(報告内容が実践活動の事実と著しく相違していることが判明した場合は、発表後
であっても入賞を取り消すことがあります。)

6. 発表 入賞した実践報告は日本児童学会誌『児童研究』に掲載いたします。

7. 審査 運営委員による一次審査を経て、審査委員による本審査を行います。

8. 審査委員・運営委員 (敬称略)

審査委員 依田 秀任 厚生労働省 子ども家庭局 子育て支援課 児童環境づくり専門官
大竹 智 立正大学 社会福祉学部子ども教育福祉学科 教授
高井 康行 社会福祉法人全国社会福祉協議会 副会長
橋本 英洋 日本医科大学 客員教授
廣瀬 英子 上智大学 総合人間科学部心理学科 教授
望月 重信 明治学院大学 名誉教授
鈴木 一光 一般財団法人児童健全育成推進財団 理事長

運営委員 荒川志津代 名古屋女子大学 教授・文学部長
植木 信一 新潟県立大学 人間生活学部子ども学科 教授
加賀谷崇文 秋草学園短期大学 地域保育学科 准教授
川鍋 慎一 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局秩父学園 園長
中川 一良 京都市北白川児童館 館長、聖和短期大学 非常勤講師
興津 哲哉 一般財団法人児童健全育成推進財団 業務執行理事
野中 賢治 一般財団法人児童健全育成推進財団 企画調査室長

平成29年度(第42回)入賞者実践報告 (敬称略)

児童健全育成賞(数納賞)

- 京都市明德児童館「認知症理解への取組」—高齢者福祉との協働・支え合う地域へ—
京都府京都市 京都市明德児童館 館長 西尾 久美
- 事務所を子どもたちに開放した実践事例 —お茶の間のような事務所から見てきたもの—
東京都三鷹市 三鷹市西多世代交流センター 児童厚生員 宮村 真紀

※上記、児童健全育成賞(数納賞)は2編ともに受賞の水準に達しており、審査の結果、甲乙つけがたく審査委員一致で2編選定

児童健全育成賞(数納賞)佳作

- 遊びでつながる子ども達—不登校になった子どもとその母親への支援—
沖縄県うるま市 みどり町児童センター 館長 山城 康代
- 家族の再統合をめざして
岐阜県岐阜市 宗教法人天理教濃飛分教会 吉福 多恵子
- 予防的観点から臨んだ3年間の取り組み —自分を大切にできる子どもに—
愛知県北名古屋市 鍛冶ケー色児童館 児童厚生員 高橋 由香里
- 過去を整理し、現在に足をつけ、未来へ進むための生い立ちの整理
愛知県名古屋市 児童養護施設ゆうりん 主任心理士 藤崎 真士

児童健全育成賞(数納賞)奨励賞

- ごちゃまぜの児童館 —地域の居場所・未来へつながる活動—
長野県松本市 寿台児童館 児童厚生員 竹内 亜哉

※過去の入賞実践報告の一部を児童健全育成推進財団ホームページからご覧いただくことができます。